

2019年度修了生の皆様 修了おめでとうございます

〈2019年度専任教員退任挨拶〉

栗原 克文 教授

「令和の時代を拓いていってください」



2017年4月に会計研に着任してから3年間、税の魅力や面白さをできるだけ伝えるように努めてきました。社会の変化と税制は深くつながっており、社会の変化に対応した税制を考えていかなければなりません。近年の社会の変化は、ICT化やデジタル化が目覚ましく、最近の税の大きなトピックスはデジタル経済への課税です。私が会計研にいた3年間も、デジタル経済に対して税制がどのように対応していくかを考え続けてきました。

社会の変化を大雑把に捉えると、昭和の時代には機械化が大きく進展し、高度の経済成長を遂げました。平成の時代はICT化と国際化が大きく進展し、それに税制が追いつくべく、多くの税制改正が行われてきました。

令和の時代はどうなるのでしょうか？確たる予測はできませんが、平成までの時代よりも変化のスピードがはるかに速く、激しくなっていくことは間違いないと思われます。ビジネスモデルのサイクル、商品のサイクル、サービス内容のサイクルなどが短く速くなっていくでしょう。社会が急速に変化していく令和の時代に活躍する皆様はこうした変化に対応して時代を拓いていってください。

私は会計研からは離れますが、今後も変わり行く社会における税制のあり方を考え続けていきたいと思えます。皆様に再びお目にかかる機会を楽しみにしています。

栗原先生ありがとうございました

会計研究科の今年の同窓会は、2020年9月26日（土）に会計研15周年のイベントとともに開催予定です。同窓会に関する連絡は、代表幹事および会計研ウェブサイト・Facebookから行います。皆様にお会いできるのを教職員一同楽しみにしています。

会計研究科HP：<https://www.waseda.jp/fcom/gsa/>

会計研究科Facebook：会計研究科HPにアクセスし「会計研Facebook」を見てください。

「人生は、借方と貸方である。」

加藤 大吾 講師



2005年の会計研究科創設当初から簿記のチューター業務に携わり、2011年より非常勤講師、2015年より任期付講師として勤務させていただきました。その間、多くの先生や職員の皆様のご尽力の下で、会計研の学生の皆さんに簿記の指導を通じて、また、他大学の研究者の先生方とも交流をさせてもらい、多くのことを学ばせていただき、厚く御礼申し上げます。

それではここで、簿記の問題です。会計研修了後には、家族のために、社会のために、そして、自分のために働くことになると思いますが、社会人1年目（または社会復帰）の初日に行く開始仕訳は何でしょうか？

答えは、会社や組織という肩書きを使って、力を貸してもらおうという、会社に対する借り（負債）を貸方に計上するとともに、借方科目は「のれん」という仕訳をします。その後、職場とクライアントに対して、サービスを提供することにより、会社に対する借りを返し、そこから得た経験値を自己資本へ振り替えていきます。しかし、万が一、借りを返せないと負債が残ったまま、のれんが減損して債務超過に陥ってしまいますので注意が必要です。

AI（人工知能）にはできず、人間にしかできないことの1つは、信用創造です。また、借りを返すチャンスは、決して仕事だけではありません。例えば、時間を守る、字をきれいに書く、相手を敬う、懇親会に参加するなど、小さなコミュニケーションを通じて、お互いの信頼関係を構築し、やがて、大きなチャンスをつかむことができるのです。

私自身は、これからも趣味と実益が叶った自分の簿記に、講師と会計監査などを通じて、磨きをかけていこうと思います。また来年度から引き続き、非常勤講師として、お力添えをさせていただきますながら、将来、簿記や会計の世間話でもしながら、多くの会計研修了生と一緒に楽しく仕事ができる日を楽しみにしています。

加藤先生ありがとうございました。

加藤先生は4月からは非常勤講師として引き続きご指導いただきます。